

教科	目指す資質・能力	具体的な取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心・意欲をもって学習に取り組むことができる。 ○相手に分かりやすく内容を整理して伝えることができる。 ○スピーチや感想文で、いろいろな気持ちを表す言葉を使いながら自分の気持ちを表現することができる。 ○文字を正しく丁寧に書くことができる。 ○絵本の読み聞かせを通して物語を楽しむことができる。 ○実態に合わせた文章の読み取りができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1単位時間を構造化し、短く区切って指導する。 ○児童の実態に応じて、児童が触れたことのある物語や歌、詩などを教材として使用したり、クイズやしりとり、早口言葉などの言葉遊びを学習の導入として取り入れたりする。 ○発達段階に応じた課題に取り組めるよう、習熟度別グループに分けて指導する。グループ編成は学期毎に見直しを行い、丁寧な指導を行う。 ○「いつ」「どこで」「誰が」「何をした」などの項目の書かれているワークシートを使用したり、話す活動を取り入れたりする。 ○気持ちを表す言葉を例示し、その中から選択させることで、語彙を習得させていく。 ○インタビュー形式で大人とやり取りをする中で、心情を表す言葉を伝え、自分の気持ちに気付かせていく。 ○国語の学習だけでなく、日々の生活ノートの記入の際に丁寧に書くことを意識させる。 ○季節や行事に合わせた本や短めの物語の絵本を選書することで、興味、関心をもてるようにする。 ○具体物を使ったり、見たり、実際に触れたり、体験したり、劇遊びを取り入れたりし、内容を理解しやすいようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心・意欲をもって学習に取り組むことができる。 ○数の概念を理解し、四則計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達段階に応じた課題に取り組めるよう、習熟度別グループに分けて指導する。 ○授業を構造化し、活動内容を短く区切る。 ○数え歌や手遊び歌を学習の導入に活用したり、具体物や半具体物を用意したりする。また、身近な事象と結び付けた問題を設定する。 ○ブロックやおはじきなどの半具体物を繰り返し操作しながら、数の量や数の合成、分解が理解できるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○合唱や合奏を楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽器、童歌、リズム打ちなど、いろいろな活動を取り入れたり、児童同士の関わりを作ったりすることで意欲的に参加できるようにする。また、同じ教材を繰り返し扱い、安心して取り組めるようにする。 ○学校生活の様々な場面で音楽に親しめるようにする。 ○和太鼓の演奏を取り入れ、周りの音を聴いて、自分の音を合わせる経験を通し、合奏の楽しさを味わえるようにする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で考えながら作品を作ることができる。 ○様々な触感を味わうことができる。 ○作品作りを通して指先の巧緻性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚的な支援を用いることで、言葉がけを最小限にし、児童が自ら考え、活動する時間を確保する。 ○児童自身の力で取り組める活動を基にするなど、作品作りの工程を設定する。 ○発達段階に応じた課題に取り組めるよう、実態に合わせてグループを編成し、指導をする。 ○糊、粘土、綿等、様々な触感が感じられるものを作品作りに取り入れる。 ○紙をちぎったり、色を塗ったりと細かい作業を取り入れる。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○運動に関する技能を身に付けることができる。 ○自分の体を自分でコントロールできるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スモールステップでの指導・支援を行うため、発達段階に応じたグループ分けをする。 ○楽しみながら運動経験を積んでいけるように、遊びやサーキット、ゲーム形式の活動を積極的に取り入れる。 ○体づくり運動をはじめ、人工芝生ブロックの上を歩くなどの感覚統合運動(あそび)を取り入れる。

<p>生活 単元 学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学級園では季節に合わせた野菜を育て、生長や収穫できる喜びを感じることができる。 ○歩行学習を通して、道の歩き方や信号の渡り方などを学び、安全に歩行できるようになる。 ○安心して行事に参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜を観察する活動では目・鼻・手・耳などを使い、野菜の生長の様子や変化などに気付けるようにする。また、実態に応じて ICT 機器を用いて観察ができるようにする。 ○学区内を歩行するなどして、歩行の技能を高められるようにする。回数を重ねるごとに歩く距離を長くする。 ○事前学習を行い、見通しをもたせる。
<p>日常生活の 指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自立に向けて必要なスキルを身に付けられるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○余裕をもった時間の設定をしたり、見守りながら支援のタイミングを見付けたりする。 ○課題を明確にするとともに、取り組む課題を精選する。 ○着替えの手順カードや補助シート、トイレのマナーカード等を、提示・掲示し、視覚的な支援をする。 ○あいさつの良い手本を見せ、気持ちの良いあいさつを身に付けさせていく。 ○食事のマナーを意識できるよう、児童一人一人に合わせた指導をしていく。また、児童に合わせたカトラリーを使用できるようにする。 ○上履きの洗い方、洗濯物の干し方、机の拭き方、ゴミの分別などの学習を行う。 ○朝の会の日直を通して、人前で話をしたり、困ったときに助けを求めたりするスキルを身に付けられるようにする。